

ARAI NEWS



アライでは、世間でGPをはじめとするサーキットでの転倒はもたらざることを、あらゆる状況でも安心していただけるヘルメットを数多く開発して研究に取り組んでいます。

上の方を打つ場合ももちろんあります。最近多くなってきたのは、マシンの反対側に放り出されるハイサイドによって側頭部の上の方を打つ例です。マシンが暴れたときには顔面から突っ込む場合もあります。このハイサイドを起こした時のヘルメットの傷は、外見上いたいたことがなくとも、実際にはかなりの衝撃が加わり、脳震盪を起こす場合も多くなります。まして中速コーナーや高速コーナーで飛ばされたときに加わる衝撃はハンパなものではありません。

このようにヘルメットの側面、それも後方の下側を打つことが多い転倒に対し、逆に天井部を打つ例はほとんどありません。ところがヘルメットの安全性をテストする規格のほとんどは、実際の事故で打つより上の方を打ってテストする規格なのです。だから安全なヘルメットをと思ったら、規格を確認するのはもちろんですが、下の方がしっかりしているかどうかを自分で確かめる必要があります。

ヘルメットは、頑丈で弾性のある帽体と、吸収力の大きなライナーの組み合わせにより頭を守ります。ですから安全なヘルメットがどうか自分で確かめる方法として、アライが以前から提案しているように、①両手でヘリをつぶすように押して、変形率が少なく、帽体以外の下の方までしっかりできているかを確認する。②側頭部から後頭部にかけて、耳のあたりでヘリをつかんでライナーの厚みかしっかりしているかを確認する。この2つが安全のためのポイントです。アライがヘルメットはまず安全でなければならぬといひ続けてきたからでしょうか、最近では、他社のものを見ても、ヘリの強さは随分と改善されてきたようです。また、安全性能が、ヘルメットを手に入れる際の大きな要素になってきているのも事実です。ライダーにとっても喜ばしい事です。アライは、世界で最も厳格な安全基準のもとに作られています。これからもこうした安全性能が、他社にマネされるようにがんばります。

こうしたヘルメットを分析してみると、大きな衝撃の目撃位は側面にきています。側面でもちよっと後ろ寄りでかなり下の方に集中しています。こういった場合は、マシンがすべてで転倒、まず一発目の衝撃がこのあたりにきて、そのまますべていった時の傷がくりと一面についているのが特徴です。また、同じような転倒例でも、スピードが高いと、こけてからもなかなか止まらずガードレールなど障害物にあたって止まる場合もあります。こうなると地面との一発のほか、最後の障害物に当たった時の大きいのがもう一発くるわけです。この大きな一発もだいたい側頭部よりも後ろにきます。後頭部のヘリの近くを打つ場合も少なくありません。



実際の転倒ではここを打つ 身を守るためのヘルメット選びは慎重に

(株)アライヘルメット
 〒330 埼玉県大宮市東町2-12
 TEL(048)641-3825~7



●アフターサービスの窓口は品質管理課です
 製品の専攻。お気軽にご相談ください
 直通 TEL(048)645-3561